



Human City Kumamoto

風格ある 文化創造都市を目指して

本市は、先人が築いた優れた特色ある伝統・風土を市民の誇りとして大切に守り育み、風格ある歴史性豊かな都市を形成する。また、市民の豊かな創造力から多様で幅広い都市文化が生まれ、その新しい文化と伝統が調和した都市を目指す。

熊本城

本市は豊かな歴史・文化に恵まれ、国・県・市の指定文化財が187件もあります。中でも、歴史都市くまもとの象徴となっているのが熊本城です。

熊本城は加藤清正が築いた約98万平方メートルもの広さを持つ豪壮雄大な城です。その建物の大半は、明治10年西南の役の際、薩軍総攻撃の直前に火災で焼失してしまいました。そこで史跡の保全や復元に努めてきており、今後も旧来の堂々とした姿に戻していくことにしています。

平成4年秋には台風で倒壊した長堀の復原が完成、同じ台風で被害を受けた天守閣の補修も平成5年夏に完了しました。

さらに平成2年度から整備を進めていた「三の丸史料公園」が平成5年夏落成しました。三の丸は藩主の御屋形(屋敷)や上級武士の屋敷があった所で、ここに東子飼町にあった県指定重要文化財の武家屋敷「旧細川刑部邸」を移築復元し、当時をしのばせる場所としています。

平成5年秋に「火の国フェスタくまもと'93」の時代ゾーンの中心部分として特別公開し、約24万人が訪れました。平成6年から一般公開しています。

また、本市には多くの伝統芸能や伝統技術、地域のまつりなどが数多く伝えられていますが、これらの保

存・継承のために後継者育成などの支援に努めています。

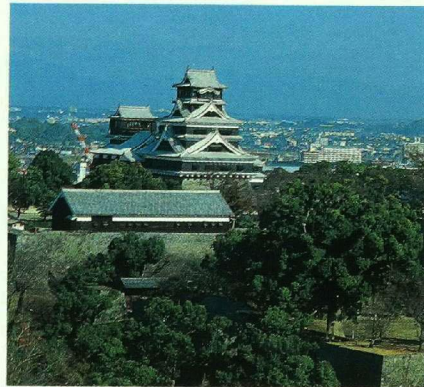
坪井川リバーウォーク整備

平成元年、市制100周年事業として坪井川総合環境整備事業を発足させました。

坪井川は都心部を貫流し、かつては有明海から熊本城下に至る「舟運の水路」として、また近年は「錦鯉の泳ぐふるさとの川」として、市民に親しまれています。

この事業は、坪井川の坪井橋から春日橋までの約3.3kmの区間を遊歩道(リバーウォーク)として整備するもので、川の持つ特性と地域の個性を十分に生かした水辺空間を創造し、市民の生活環境を向上させるとともに、潜在する歴史的文化遺産を

熊本城



発掘、保存し、観光資源としても活用するなど、21世紀に向けた新しい街づくりを推進するものです。

平成4年3月千葉城公園が完成し、平成6年度には、その第2期工事が完成しました。また小沢町・桜町においては、一部の用地買収を行っており、他の地区についても実施可能などから順次整備する予定です。



坪井川リバーウォーク整備による千葉城公園第2工区



熊本県指定重要無形文化財「武田流騎射流鏑馬」

史跡・文化財は先人からの贈り物であり、市民みんなの宝物です。また、個性豊かなまちづくりにも大きな役割を果たすもので、その保存・活用に努めています。

古代から人々の生活の場であった本市では約455ヵ所で遺跡が見つかっています。特に注目されているのが、黒髪7丁目のつつじヶ丘横穴群と池上町平の池辺寺跡(清水原遺跡)です。

つつじヶ丘横穴群は古墳時代後期にがけ面を直接掘り込んで造ったもので祭祀跡がそのまま残されています。また、池辺寺は平安時代の山岳密教寺院と考えられ、大規模な建物の礎石や埴(レンガの一種)、規則的に並ぶ不思議な石積みが見つかりました。

また、熊本は、時代の大きなうねりの中で、多くの偉大な先哲が活躍してきた地でもあります。

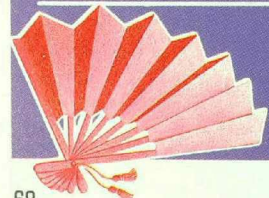
市では、関係者から寄贈された建物や資料をもとに平成6年2月3日にリデル、ライト両女史の記念館を開館し、さらに後藤是山記念館を開館する予定で準備を進めています。開館中の徳富蘇峰・蘆花、横井小楠、ジェーンズ、夏目漱石、小泉八雲の記念館・旧居や四方寄町の「御馬下の角小屋」でも、企画展の実施など内容を一層充実させていきます。

このほかのふるさとを築いてきた

●歴史都市の継承

史跡・文化財

HUMAN CITY
KUMAMOTO



数多くの先哲についても、その顕彰に努めていくことにしています。

*せん(埴、磚、甎)

東洋建築用材の一。煉瓦・タイルに類し、土を焼いて方形または長方形の平板としたもの。周代に始まり、漢代に発達し、その後、各時代に用いられた。わが国では奈良時代に造られ、時に鳳凰・天人・唐草文様などを浮彫してある。敷瓦・壁体化粧材・天井構材などに使用。



熊本洋学校教師館 (ジェーンズ邸)



千金甲古墳 (甲号)



歴史的雰囲気に残る川尻の町並み



京町本丁 漱石記念緑道

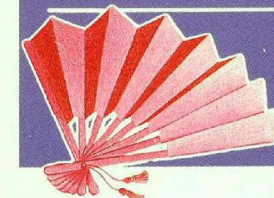


シンボルロード

●歴史都市の継承

都市景観

HUMAN CITY
KUMAMOTO



本市では歴史や自然と調和した個性豊かな都市景観の形成を図るため、さまざまな事業施策に取り組んでいます。

公共空間については、シンボルロード事業や辛島公園リフレッシュ事業など本市の顔となる通りや広場をはじめとして、地域の歴史や文化を生かした景観整備を積極的に行っています。

平成元年10月には、多くの皆さんの参加協力を得て総合的に都市景観の形成を進めるため、「熊本市都市景観条例」を制定しました。この条例は、市民、事業者、行政の三者がそれぞれの責務に基づいて創意を発揮すること、景観形成のために地区指定等の制度を活用すること、市民のまちづくり活動を支援することを大きな柱としています。平成3年4月からは「大規模建築物等」の届出制度の運用を始め、地域の景観と調和した事業を行っていただくよう指導を進めています。

平成3年10月には「くまもとまちづくりフェア」、平成5年度及び平成6年度には「光の感動(ライティング・エモーション)事業」を開催するなど、魅力ある景観づくりを市民の皆さんとともに考え、協力して実施する取り組みも進めています。

今後、都市づくりに関わるさまざまな分野で、熊本らしい個性豊かな都市景観をつくるための取り組みを積極的に進めることにしています。



市民美術展

また、市民の創作活動の発表の場として洋画・日本画・版画・写真の5部門からなる市民美術展の開催や市民会館、総合女性センターなどでもそれぞれの施設のもつ特色を生かしながら活発な自主企画事業を展開しています。

平成5年6月に、文化功労者で洋画家の故井手宣画伯の初期から晩年まで多くの貴重な作品を本市に寄贈を受けたことをきっかけとして、美術館の建設計画も生まれ、現在準備がすすめられています。この美術館は、21世紀を活動の舞台として多様で高度な機能を持ち、そして地域文化の創造拠点、新しい文化の発信拠点として誕生する予定です。

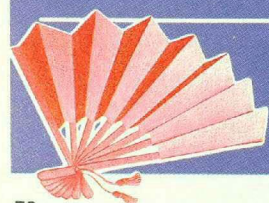
芸術文化

本市は、伝統文化を大切に守り育みながら、21世紀へ向けて地域性豊かで魅力のある文化の創造を図るため、さまざまな施策を展開しています。

市民自らの芸術文化活動を強力に支援するため、文化団体への補助金の交付、市民文化事業に対する助成や名義後援事業、賞状・賞金の交付をはじめ、21世紀に向けた個性豊かな文化創造の担い手の育成を図るため、人づくり基金を活用した支援事業など、さまざまな形で積極的に展開しています。

●都市文化拠点の形成

市民文化
HUMAN CITY
KUMAMOTO



市民会館自主文化事業

このことと同時に、平成6年10月には21世紀へ向けた美術を中心とした文化の振興事業を活発に行うため、「財団法人熊本市美術文化振興財団」を設立するなど、芸術文化の振興事業を図るうえで大切な環境整備にも積極的に取り組んでいます。

地域文化

高度な芸術活動や市民の身近な文化活動の拠点となる施設の整備・拡充を進めています。

市民会館、産業文化会館、総合女性センターなど既存の施設をさらに充実させるほか、特色を持った地域文化施設の整備なども検討していく予定です。

近年では、人々の価値観も、ゆとり、潤い、本物志向など、物から心へと変化するとともに、週休2日制の普及や労働時間短縮も次第に進展しており、いよいよ経済的豊かさと心の豊かさを合わせ持った、真に豊かさを実感できる社会の実現が望まれるようになっていきます。

また、人生80年という長寿社会が到来し、お年寄りも含めて、誰もが生きがいのもてる社会づくりは、大変重要な課題であります。

このようなことから、私たちの日常生活の中で、余暇の過ごし方は極めて大きな意味を持つようになってきており、みんなができるだけ余暇活動をしやすい環境を整えるために民間・行政が、それぞれの役割に応じた取り組みを行っていく必要があります。

本市では、文化団体やイベントへの助成などの活動の支援、市政だよりやビデオテックス、ケーブルテレビなどを利用した情報の提供、そして、文化施設やスポーツ施設などの余暇施設の整備、さらには市民美術展や市民体育祭などのイベントの開催といった施策を展開しています。

今後もさらに、余暇施設の改善や新たな整備、市民それぞれのニーズに応じた施設やイベント、企画の工夫などによって余暇活動への参加を促すとともに、労働時間の短縮や休

暇制度の充実、さらには育児休業や介護休業、保育の充実などの福祉施策の推進によって自由時間の拡大をすすめる、市民の余暇活動の活発化を図っていきます。

動植物園

市民の社会教育の場、レクリエーションの場として昭和4年(1929年)水前寺にある成趣園東側に動物園を開設しました。周辺の都市化が進み敷地の拡張が困難になり、昭和44年(1969年)江津湖のほとりの現在地に移転しました。平成3年(1991年)4月、熊本市制100周年を記念して都市緑化植物園と一体化となり『熊本市動植物園』が誕生し、市民の憩いの場として多くの人々に愛され親しまれています。

約24万㎡の総敷地に146種約950点の動物がいる動物園と約500種5万点の植物が植えられた植物園、さらに大型12種、小型40種の遊戯施設で構成されています。

平成5年(1993年)9月には中国西安動物園から金絲猴を長期借用して中国側と金絲猴の未知の部分の共同研究を行い、稀少動物を絶滅から護り、いかにして保護繁殖をさせるかということテーマとして研究に取り組んでいます。

本園の今後の課題としては、環境問題が世界的規模で深刻化していくなか自然環境の保全と野生動物の保護の大切さをアピールするため、動物園ゾーンにおいては自然息に近い状態での展示が可能な動物舎の建設、植物園ゾーンにおいては愛好団体等による花と緑に関する四季折々の展示会を充実させるなど、さらに活気のある魅力的な動植物園づくり

をめざします。

学術研究

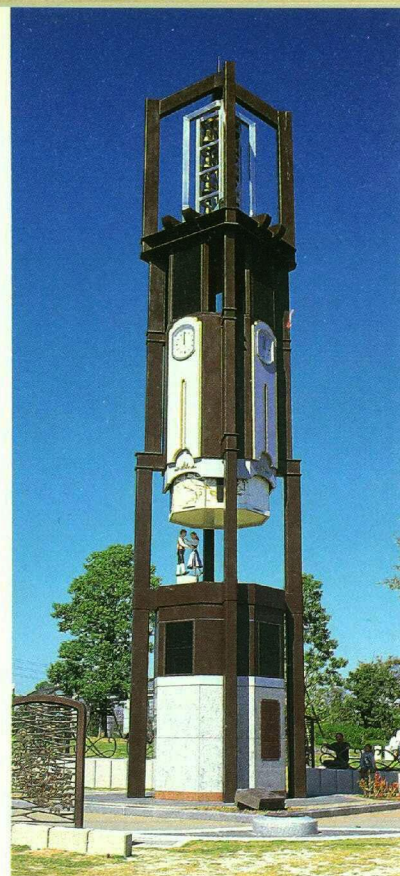
本市は、文教都市としての伝統、豊かな自然環境、充実した都市機能などを生かし、学術研究の拠点都市として発展すべく力を注いでいます。

具体的には、環境総合研究所、水産技術センターなどの公的研究施設の建設・整備、市立大学設置に向けた調査・検討など、積極的な施策を展開しています。

また、学術研究の活発化を図るため、様々な研究機関の交流活動への支援や優れた研究者の招聘などを行っています。

さらに、稀少動物保護の観点から、世界でも珍しい金絲猴の学術共同研究を行っています。

今後も、学会の誘致、シンクタンクの設立など、積極的に推進していきたいと考えています。



皇太子御成婚記念時計塔



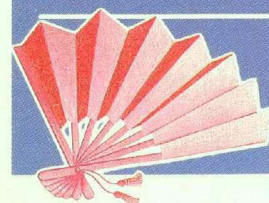
動植物園植物園ゾーン



日中学術共同研究のための金絲猴舎

●都市文化拠点の形成

生活文化
HUMAN CITY
KUMAMOTO



日中学術共同研究のための金絲猴舎

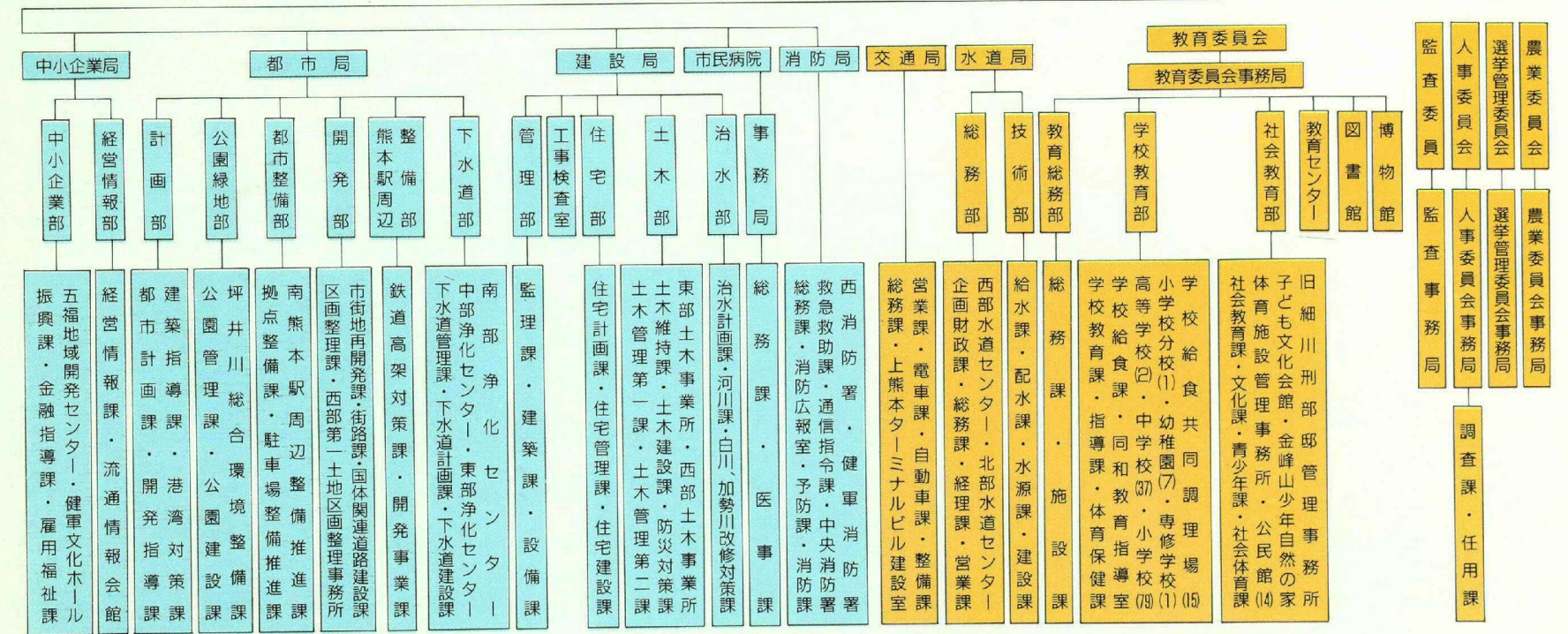
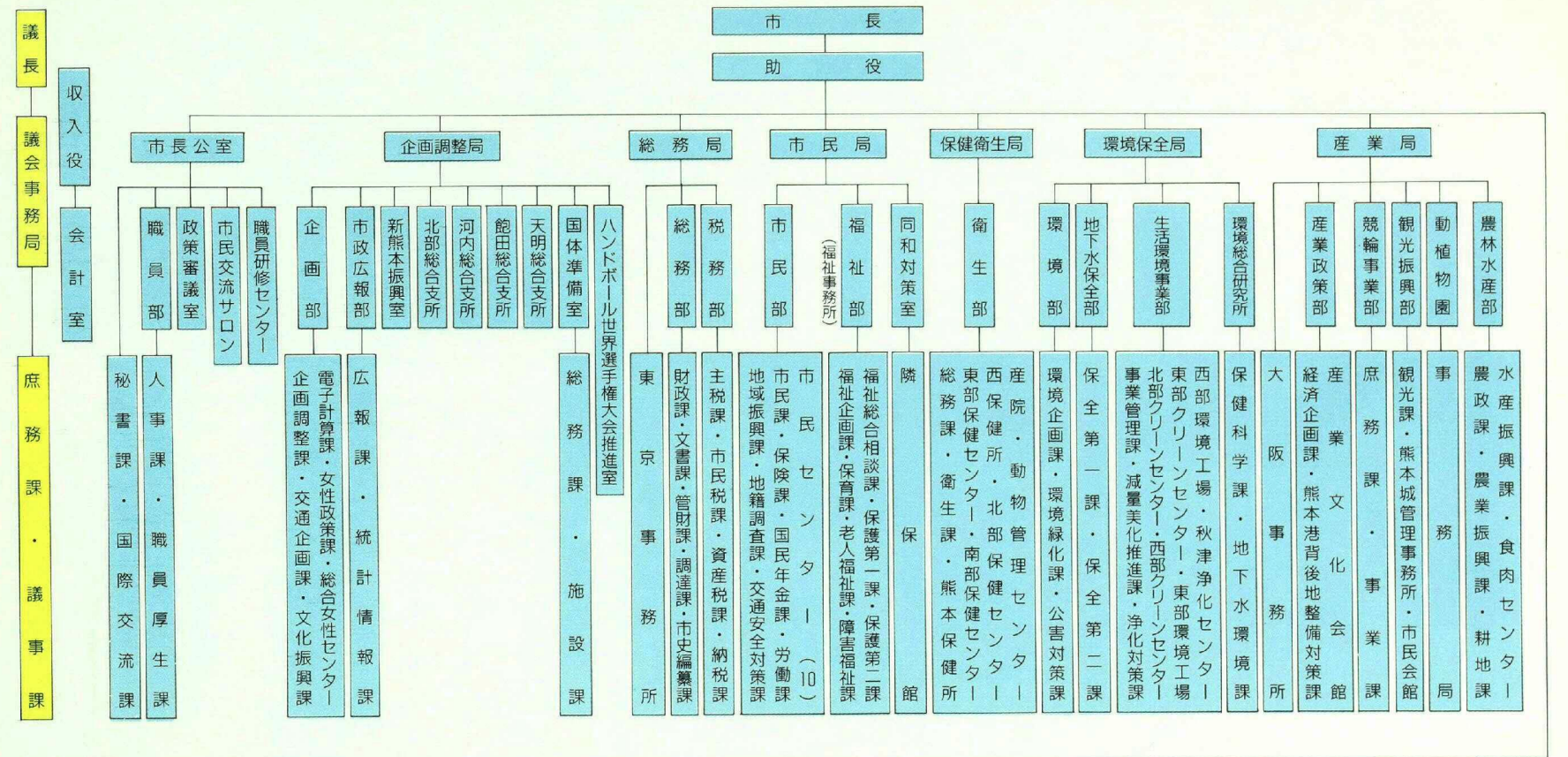


左から御厨一熊助役、三角保之市長、吉田紀生助役、中村順行収入役

■歴代市長

代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日
第1代	杉村大八	明治22. 5. 6	明治26. 7. 9	第11代	平野龍起	昭和17. 6. 25	昭和20. 8. 10
2	松崎為己	明治26. 9. 15	明治30. 8. 2	12	石坂繁	昭和20. 10. 4	昭和21. 3. 11
3	辛島格一	明治30. 9. 13	大正2. 1. 20	13・14	福田虎亀	昭和21. 6. 14	昭和23. 2. 9
4	山田珠一	大正2. 4. 2	昭和3. 10. 10	15	佐藤真佐男	昭和23. 4. 7	昭和27. 3. 7
5	依田昌兮	昭和4. 1. 14	昭和6. 9. 3	16	林田正治	昭和27. 3. 20	昭和31. 2. 23
6	佐柳藤守	昭和6. 11. 20	昭和10. 11. 19	17・18	坂口主税	昭和31. 3. 16	昭和38. 1. 4
7	高橋守知	昭和11. 1. 19	昭和14. 7. 13	19・20	石坂繁	昭和38. 2. 15	昭和45. 11. 26
8	辛島知珠	昭和14. 9. 14	昭和4. 7. 4	21~24	星子敏雄	昭和45. 12. 20	昭和61. 12. 6
9	山田珠一	昭和5. 2. 5	昭和9. 4. 17	25・26	田尻靖幹	昭和61. 12. 7	平成6. 12. 6
10	山隈康	昭和9. 5. 14	昭和17. 5. 13	現市長	三角保之	平成6. 12. 7	在任中

■熊本市行政機構図 (平成7年4月1日)



■歴代市議会議員

代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日
1	有馬源内	明治22. 4. 26	明治24. 1. 21	14	大塚勇次郎	昭和23. 6. 5	昭和26. 4. 29	27	紫垣正良	昭和50. 5. 16	昭和52. 6. 4
2	興津景章	〃 24. 1. 22	〃 28. 5. 13	15	大塚勇次郎	〃 26. 5. 15	〃 30. 4. 30	28	上田堅太	〃 52. 6. 4	〃 54. 4. 30
3	河原性親	〃 28. 5. 14	〃 31. 5. 22	16	兼坂安次	〃 30. 5. 21	〃 34. 4. 8	29	島永慶孝	〃 54. 5. 14	〃 56. 12. 8
4	吉永為己	〃 31. 5. 23	〃 36. 2. 5	17	打出信行	〃 34. 6. 12	〃 36. 3. 24	30	藤山増美	〃 56. 12. 8	〃 58. 4. 30
5	山田珠一	〃 36. 2. 6	〃 37. 4. 30	18	寸坂幸夫	〃 36. 3. 24	〃 38. 4. 30	31	宮原光男	〃 58. 5. 18	〃 60. 9. 6
6	吉永為己	〃 37. 5. 27	大正 2. 4. 30	19	阿部次郎	〃 38. 5. 18	〃 40. 3. 18	32	大石文夫	〃 60. 9. 6	〃 61. 12. 15
7	林千八	大正 2. 5. 10	〃 6. 4. 30	20	井上常八	〃 40. 3. 18	〃 40. 12. 7	33	内田幸吉	〃 61. 12. 15	〃 62. 4. 3
8	山隈康	〃 6. 5. 15	〃 10. 9. 30	21	石井辰雄	〃 41. 7. 4	〃 42. 4. 30	34	西村建治	〃 62. 5. 22	〃 63. 12. 16
9	迫源次郎	〃 10. 10. 14	〃 14. 9. 30	22	阿部次郎	〃 42. 5. 20	〃 43. 7. 3	35	村上春生	〃 63. 12. 16	平成 2. 3. 26
10	山隈康	〃 14. 10. 12	昭和 9. 5. 7	23	坂梨日露	〃 43. 7. 13	〃 45. 12. 4	36	矢野昭三	平成 2. 3. 26	〃 3. 4. 30
11	平野龍起	昭和 9. 5. 8	〃 17. 6. 14	24	黒田弥一郎	〃 45. 12. 4	〃 46. 4. 30	37	嶋田幾雄	〃 3. 5. 17	〃 5. 12. 3
12	佐藤真佐男	〃 17. 7. 23	〃 22. 4. 29	25	落水清	〃 46. 5. 20	〃 48. 6. 6	38	中村徳生	〃 5. 12. 3	在任中
13	佐藤真佐男	〃 22. 6. 9	〃 23. 4. 7	26	古川国雄	〃 48. 6. 6	〃 50. 4. 30				

■歴代市議会副議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日
1	下田一直	明治22. 4. 26	明治24. 1. 21	16	平野龍起	昭和 4. 10. 12	昭和 9. 5. 7	31	岩尾恵	昭和44. 9. 13	昭和46. 4. 30
2	下田耕造	〃 24. 1. 22	〃 31. 5. 22	17	橋本寿七	〃 9. 5. 8	〃 17. 5. 20	32	阪本富	〃 46. 5. 20	〃 48. 6. 6
3	片山甚十郎	〃 31. 5. 23	〃 32. 2. 7	18	西郷一恵	〃 17. 6. 11	〃 22. 4. 29	33	荒木	〃 48. 6. 6	〃 50. 4. 30
4	林定男	〃 32. 2. 8	〃 36. 2. 5	19	大塚勇次郎	〃 22. 6. 9	〃 23. 6. 5	34	藤山増美	〃 50. 5. 16	〃 52. 6. 4
5	出田彦太郎	〃 36. 2. 6	〃 36. 2. 11	20	加川恒次	〃 23. 6. 5	〃 26. 4. 29	35	矢野昭三	〃 52. 6. 4	〃 54. 4. 30
6	園部交雅	〃 36. 2. 12	〃 36. 5. 11	21	北利民	〃 26. 5. 15	〃 28. 9. 5	36	上妻重蔵	〃 54. 5. 14	〃 56. 12. 8
7	板垣正軌	〃 36. 5. 12	〃 37. 2. 12	22	上野勉	〃 28. 9. 25	〃 30. 4. 30	37	田尻武男	〃 56. 12. 8	〃 58. 4. 30
8	有働格四郎	〃 37. 2. 13	〃 40. 11. 4	23	森光吉	〃 30. 5. 21	〃 32. 12. 28	38	白石正	〃 58. 5. 18	〃 60. 9. 6
9	板垣正軌	〃 40. 11. 14	〃 42. 1. 27	24	吉村貞次	〃 34. 6. 12	〃 35. 3. 21	39	北口政義	〃 60. 9. 6	〃 61. 12. 15
10	河田巖	〃 42. 1. 28	大正 2. 4. 30	25	坂梨日露	〃 35. 3. 21	〃 37. 7. 9	40	吉村潔	〃 61. 12. 15	〃 62. 4. 30
11	井場熊喜	大正 2. 5. 10	〃 6. 4. 30	26	吉村貞次	〃 37. 7. 9	〃 38. 4. 30	41	竹本勇	〃 62. 5. 22	〃 63. 12. 16
12	峡謙斎	〃 6. 5. 15	〃 7. 3. 10	27	石井辰雄	〃 38. 5. 18	〃 41. 7. 4	42	村上裕人	〃 63. 12. 16	平成 2. 3. 26
13	藤野乱	〃 7. 3. 11	〃 10. 9. 30	28	吉村貞次	〃 41. 7. 4	〃 42. 4. 30	43	佐藤公平	平成 2. 3. 26	〃 3. 4. 30
14	水上誠規	〃 10. 10. 14	〃 14. 9. 30	29	佐藤寿子	〃 42. 5. 20	〃 44. 3. 25	44	西田純	〃 3. 5. 17	〃 5. 12. 3
15	河田巖	〃 14. 10. 12	昭和 4. 9. 30	30	古川国雄	〃 44. 3. 25	〃 44. 6. 28	45	伊形寛治	〃 5. 12. 3	在任中

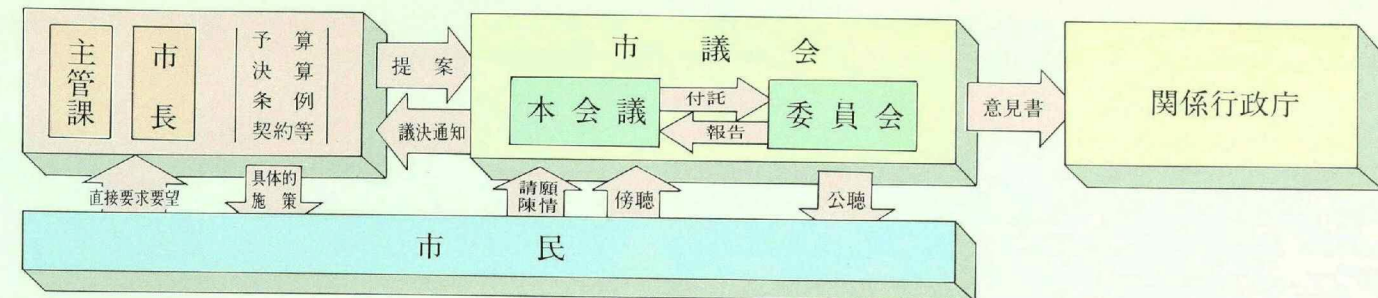


中村徳生 議長



伊形寛治 副議長

■市議会のしくみ



■市議会議員 (平成 7 年 3 月 31 日現在)

氏名	会派	氏名	会派
中村徳生	自民党	上村恵一	社会党
伊形寛治	自民党	磯道文	公明
馬場成志	自民党九人会	西泰史	公明
竹原孝昭	自民党九人会	主海俣佐雄	自民党
牛嶋弘	自民党九人会	村上裕人	自民党九人会
北口和皇	自由クラブ	嶋田幾雄	自民党
下川寛	平成クラブ	竹本勇	自民党
佐々木俊和	社会党	大石文夫	自民党九人会
田辺正信	社会党	西田純	平成クラブ
大江政久	社会党	西村建治	平成クラブ
古川泰三	自民党	本田光夫	平成クラブ
鷺山法雲	自民党	家入安弘	社会党
税所史熙	自民党	角田勝浩	公明
岡田健士	自民党九人会	亀井省治	公明
河村寅麿	自民党	中沢誠	公明
田尻清輝	平成クラブ	村上春生	自民党
鎌農健蔵	平成クラブ	田尻武男	自民党
田尻将博	平成クラブ	紫垣正良	自民党九人会
東祐代	社会党	島永慶孝	自民党
島田俊六	公明	矢野昭三	自民党
加藤静穂	自民党九人会	藤山増美	平成クラブ
諸熊文雄	自民党九人会	白石正	自由クラブ
江藤正行	自民党	村山義雄	無所属
荒木哲美	自民党	森田粹彌	社会党
荒木章博	自民党	中山弘規	社会党
奥田光弘	熊本クラブ	佐々木亮	公明
宮原正一	平成クラブ	西野法久	公明
鈴木昌彦	平成クラブ		

■常任・特別委員会 (平成 7 年 3 月 31 日現在)

名称	定数	所管事項
総務委員会	10	市長公室、企画調整局、総務局、会計室、消防局、選挙管理委員会、監査委員、人事委員会の所管に属する事項、他の常任委員会の所管に属しない事項
教育民生委員会	10	市民局、教育委員会の所管に属する事項
保健衛生委員会	9	保健衛生局、環境保全局の所管に属する事項
経済委員会	9	産業局、中小企業局、農業委員会の所管に属する事項
建設委員会	9	都市局、建設局の所管に属する事項
公営企業委員会	9	水道局、交通局の所管に属する事項
議会運営委員会	14以内	議会運営に関する調査
特別委員会		
長寿社会対策委員会	13	高齢化社会に関する対策調査
新都市総合調査特別委員会	13	新都市振興に関する総合的な調査
議会だより検討特別委員会	13	議会だよりに関する調査
スポーツ振興及び施設整備調査特別委員会	13	スポーツ振興施策の研究とスポーツ施設の整備に関する調査



市議会

市議会は、市民から選ばれた議員 56 名（現員数 55 名）で構成されています。会派としては、自民党（16 名）、平成クラブ（10 名）、自民党九人会（9 名）、社会党（8 名）、公明（8 名）、自由クラブ（2 名）、熊本クラブ（1 名）、無所属（1 名）の 8 会派が結成されています。

会議は、年 4 回開かれる定例会と

必要がある場合に開かれる臨時会があります。内部の審査機関としては、常任委員会と議会運営委員会及び特別委員会があります。常任委員会は総務・教育民生・保健衛生・経済・建設・公営企業の 6 委員会に分かれ、所管部門の事務を調査し、議案・陳情などの審査を行います。議会運営委員会は議会の運営に関する調査を

行います。特別委員会は必要に応じて議会の議決により設置されますが、付議された事件を審査するもので、現在、長寿社会対策・新都市総合調査・議会だより検討・スポーツ振興及び施設整備調査の各特別委員会があります。

今日の我が国の社会経済情勢は、バブル経済の崩壊後、長期にわたり低迷していた景気にも、ようやく回復の兆しが現れつつあるとはいえ、引き続き円高傾向や阪神大震災の影響等、その先行きにはまだまだ不透明感が漂う状況にあります。

このような中、平成7年度当初予算編成にあたっては、人情味豊かであり、思いやりのある街づくりなど、新たな施策展開を進めるため、厳しい財政状況のもと、創意工夫により、限られた財源を有効に活用し編成したところ。

この当初予算編成に当たって特に留意した点は以下のとおりです。

その第1は、市政運営の基調ともいべき、双方向の対話、すなわち市民参加の対話の街づくりです。

市民との交流拠点としての市民交流サロンの設置や地域の声を市政に反映させるための市政懇談会の実施、さらには市政モニター制度の充実等を図ることとしています。

第2は、心豊かな人情味あふれる街づくりの推進です。

家庭の延長に校区があり、校区が集まって熊本市がある、いわば熊本市全体が一つの家庭であるというような、心豊かな街づくりを目指します。

障害者や高齢者等の福祉の問題、また社会問題化しているいじめ問題

等、今こそ社会が一体となって取り組まなければならない問題が山積しており、この解決には、市民1人1人のやさしい心の涵養が重要であり、そしてこの心が地域へ、更には市域全体へと拡がる必要があります。

このため、心豊かな学校生活確立推進事業の拡充や、地域が主体となる中学校区さわやか推進事業の新たな実施、地域福祉推進のためのボランティア活性化等の諸事業を積極的に展開することとしています。

第3は災害に強い安全な街づくりです。

先般の阪神大震災の教訓を待つまでもなく、市民の生命と財産を守ること、住民に最も身近な都市自治体の基本的な役割です。

このため、熊本市地域防災計画の見直しや消防司令管制システムの整備、更には災害に備えた食糧等の備蓄などその対策に積極的に取り組みます。

第4は機能的で効率的なインフラの整備と熊本市のあふれる都市経営です。

21世紀に向けての本市の活性化や将来の発展のためには、道路公園、上下水道、住宅等の社会資本の整備のほか、都市の将来を見据えた交通関係の調査や中心市街地はもとより、熊本駅・南熊本駅周辺の再整備など拠点開発の促進に取り組むとともに今後の本市産業の指針となる新産業ビジョン等の策定を進めることとしています。

このほか、環境保全都市宣言に向けての取り組みや平成9年開催予定

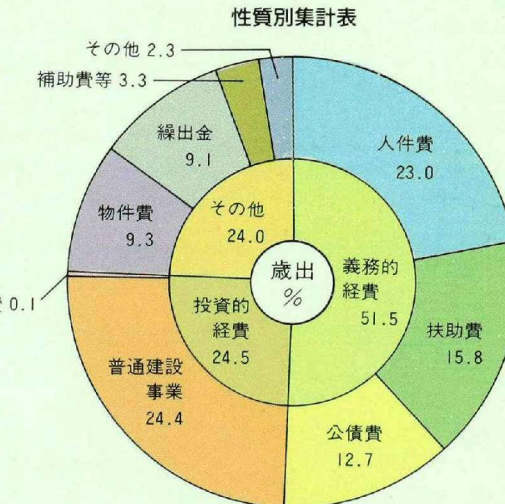
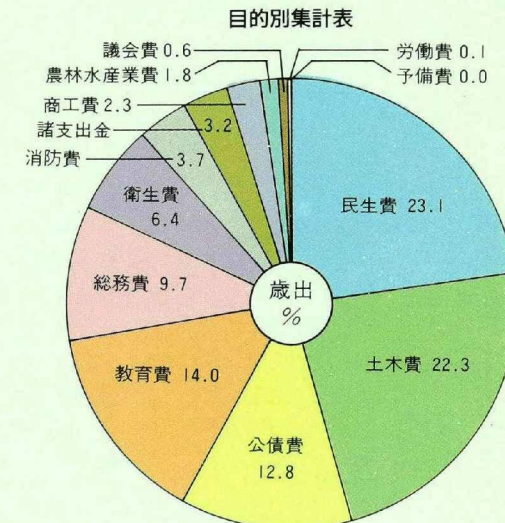
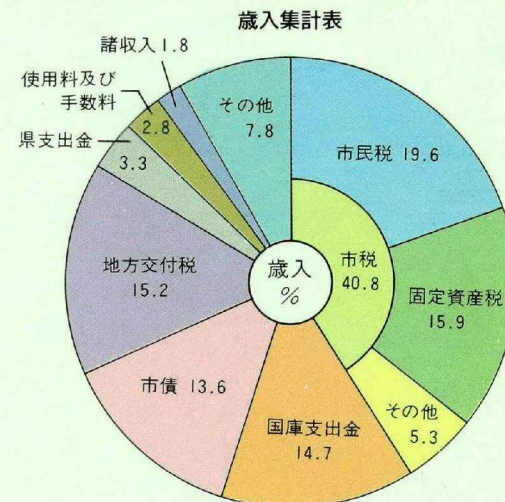
の男子ハンドボール世界選手権大会、平成11年開催予定の国民体育大会に向けての事業経費を計上するとともに、また、新熊本市の一体的発展のため総合支所管内の諸事業についても特に、意を用いたところ。

この結果、本市の当初予算は、一般会計184,700,000千円(対前年度△600,000千円0.3%減)特別会計187,400,000千円(対前年度38,130,000千円25.5%増)企業会計40,000,000千円(対前年度1,010,000千円2.6%増)総計412,100,000千円(対前年度38,540,000千円10.3%増)となりました。

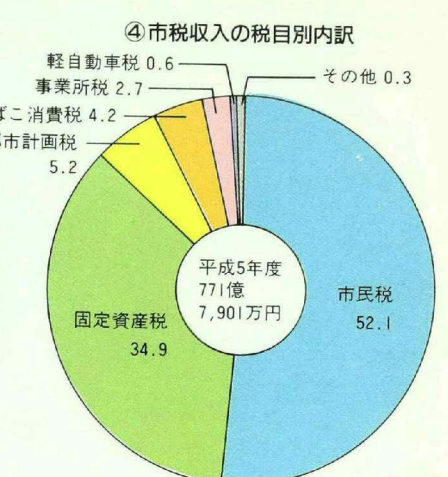
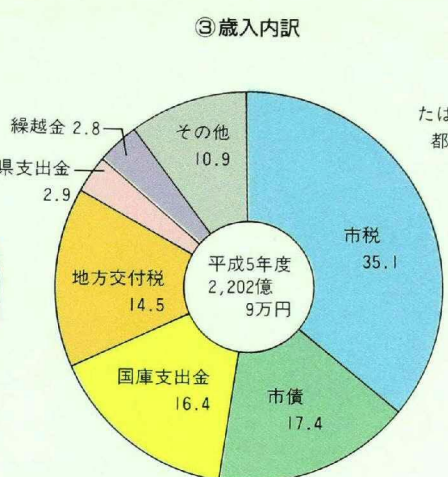
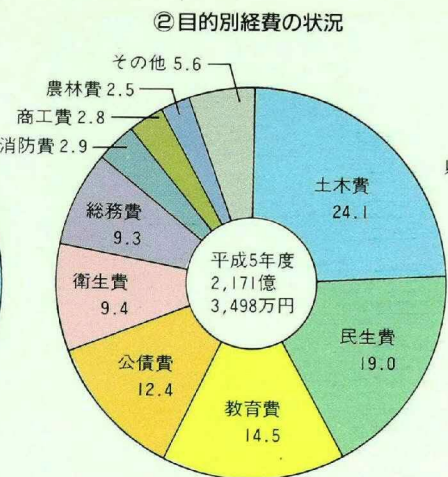
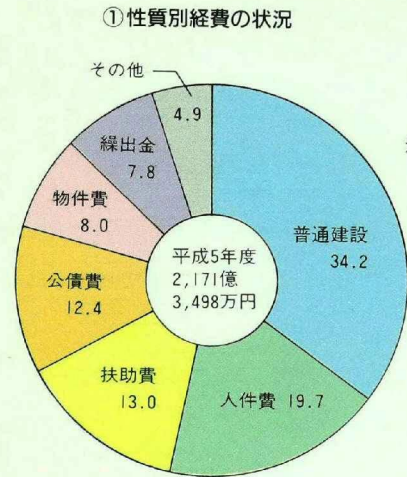
一般会計において、歳入面では、自主財源と依存財源の構成比でみると自主財源が48.5%(前年度49.7%)となっており、うち市税が歳入総額の40.8%(前年度41.2%)を占めています。また歳出面では、民生費(23.1%)、土木費(22.3%)、教育費(14.0%)と市民生活に密着した科目で予算の半分以上を占めています。

このように本年度予算は、厳しい財政状況にありながらも、市民生活の充実と市政の一層の発展を期すべく編成したところ。

■平成7年度一般会計当初予算



■平成5年度決算(一般会計)の状況



平成7年度主要事業 (単位: 千円)

1. 責任ある市政づくり、市民参加の対話の街づくり (双方向の対話の市政)

行政改革推進経費	1,000
情報公開検討懇談会経費	500
市民交流サロン関係経費	7,000
市政懇談会開催経費	2,500
市政モニター関係経費	1,800
コミュニティカルテ作成経費	5,000

2. 心豊かなやさしい街づくり (人情味あふれる街づくり)

心豊かな学校生活確立推進事業	11,100
人情味豊かな街づくり講座開設経費	3,200
地域ふれあい活動推進経費	3,000
中学校区さわやか推進事業	7,400
いじめ110番関係経費	3,300
ボランティア活動活性化経費	7,500
職員研修(ボランティア研修の充実等)	70,000
24時間対応巡回型ホームヘルプサービス調査経費	1,000
障害福祉施設調査経費	3,000
民設民営型福祉ホーム調査経費	1,500
社会福祉会館調査経費	1,500
地域福祉コミュニティセンター建設事業	408,000
高齢者・障害者にやさしいまちづくり機能訓練事業(民間活用型)	108,000
(企) 低床バス導入経費	8,000
	55,790

3. 自然と歴史を活かした誇れる街づくり、水と緑あふれる都市環境づくり

環境保全都市宣言関係経費	5,000
環境教育プラン策定経費	5,000
(仮称) リサイクル文化センター建設事業	6,000
フロンガス回収事業	13,500
緑化推進事業	320,000

緑の環境保全機能調査	7,000
水資源対策事業	122,381
水源涵養林造成事業	68,707
環境総合センター運営経費	83,904
キャブシステム整備事業	150,000
道路環境整備事業	650,000

4. 個性、活力、魅力、熊本市らしさあふれる都市経営・都市農業、水産業の経営安定化

新産業ビジョン策定経費	8,000
くまもとF&A株式会社出資金	200,000
バイオ開発研究基金出資金	70,000
香港との経済交流関係経費	8,000
農業振興計画策定経費	4,000
農業集落排水事業	8,000
(仮称) 水産技術センター建設調査経費	8,000
観光振興懇談会開催経費	4,000
食品工業団地建設推進経費	62,191
新中小企業振興ビジョン策定経費	5,000
空地、空店舗利用促進事業	3,000

5. 21世紀に向けた、情報、文化、芸術、スポーツ交流のネットワーク都市

国体プール建設事業	4,337,809
競技力向上対策経費	13,200
'97年男子ハンドボール世界選手権大会	17,500
井手宣通記念美術館基本構想策定	10,000
後藤是山旧居整備事業	57,023
福井市観光、物産交流事業	7,000
福井市との青少年交流事業	3,500
市民友好の翼派遣事業	5,000
青少年ハイドルベルク市交流経費	5,000
少年スポーツ国際交流経費	17,500

6. 機能的で効率的なインフラ整備・災害に強い街づくり

熊本市地域防災計画見直し経費	13,000
災害医療対策協議会経費	1,000
災害救援物資備蓄経費	63,000
防災公園調査経費	3,000
消防司令管制システム整備事業	960,000
災害時浄水装置購入(消防、水道)	10,000
高規格救急車購入経費	33,000
都市計画マスタープラン策定経費	13,000
熊本都市圏交通体系調査経費	7,000
都市圏交通計画調査経費	45,000
大規模開発地区関連交通計画調査経費	5,000
パークアンドライドシステム等導入調査	12,000
鹿児島本線連続立体交差調査経費	8,000
都市活力再生拠点調査経費	18,000
南熊本駅周辺再整備推進事業	18,000
中心市街地総合再生基本計画策定経費	9,000
手取本町地区再整備計画策定経費	6,570
熊本駅周辺再整備調査経費	10,100
都市計画道路事業	2,760,000
公園整備事業	1,102,100
(特) 西部第一土地区画整理事業	2,234,859
(特) 公共下水道築造事業	14,600,000
公営住宅建設事業	12,303,925
総合治水計画策定経費	60,000
都市小河川整備事業	1,560,000
準用河川整備事業	375,000
斎場建設事業	42,000
新規墓園整備事業	10,000
(企) 水道第5次拡張事業	1,579,271





市政番組の収録

本市は市民と行政が意思の疎通を積極的に図る双方の対話を基軸として、人情味豊かな思いやりあふれる「新しい熊本づくり」を進めています。

このため、広報広聴活動の原点である対話とコミュニケーションを通して市民と行政相互の信頼関係を築き、共通の認識をもって都市づくりが可能な土壌づくりに全力で取り組んでいます。

〈広報活動〉
「市政だより」などによる広報

月1回1日発行、全世帯配布、発

行部数約228,200部。また、弱者や目の不自由な方などのために「拡大版市政だより」「点字だより」「声の市政だより」を配布しています。このほか、市の施策方針を紹介した「ヒューマンシティくまもと」(年1回)やその施策を具体的に紹介する「萌」(年約3回)を発行しています。

「テレビ・ラジオ」による広報
「市民のひろば・手取本町1番1号」
RKK・TV 毎週土曜日
午前9時25分～(5分間)

「こちら熊本市」
TKU・TV 毎月第4土曜日
午前7時45分～(15分間)

「みどりの街から熊本市」
KKT・TV 毎週日曜日
午前11時45分～(5分間)

「お元気ですか 熊本市」
KAB・TV 毎週土曜日
午前10時55分～(5分間)

広報・広聴



施設めぐり

「とんでるワイド 今日元気」
RKKラジオ 毎週月曜日
午前9時30分ごろ(2分間)
「フレッシュフラッシュくまもと」
FMKラジオ 毎週火曜日
午前8時40分ごろ(5分間)
「ぶらりくまもと
サウンドギャラリー」
FMKラジオ 毎週金曜日
午前7時50分ごろ(1分間)

このほかケーブルテレビ、テレホンサービス、テレビスポットなども行っています。

報道対応

報道でも市政情報がより多く取り上げられるように市長記者会見、局長懇談会、部・課長レクチャー、資料提供などを行っています。

〈広聴活動〉

市政懇談会

市政に対する意見や要望を聴くため、地域の各層や女性、各種団体との懇談を行い今後の市政運営に反映させます。

市政モニター

市政に対するいろいろな意見を地域別、年代別等組織的に聴き、市民の声として市政に反映させます。
モニター64人 研修会等開催8回

施設めぐり

市民生活にかかわりの深い施設や新たな施設を見学します。

対象一般市民及び親子 開催8回
参加者292人

市政に関する意識調査

市民の市政に対する評価や要望等を定期的に調査する項目とその時々重要な施策について調査する項目から成り、得られた意見や要望を市政運営の参考とします。

調査対象者数3,000人 回収率70.4%

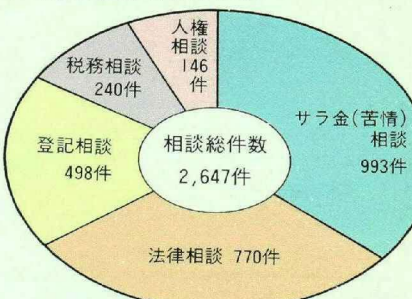
市民相談

行政サービスの向上を図るため、市民相談窓口では多くの要望、苦情などを迅速に対応し処理しています。また、特別相談として、専門相談員による法律、税務、登記、人権などの相談を行っています。

■市政相談年度別受付件数

平成元年度	607件
平成2年度	421件
平成3年度	310件
平成4年度	291件
平成5年度	282件

■特別相談利用状況(平成5年度)



■庁舎案内件数

平成元年度	107,029件
平成2年度	106,680件
平成3年度	158,746件
平成4年度	150,034件
平成5年度	140,835件

■庁舎見学数(平成5年度)

27団体(小学校26校、その他1団体)2,952人

市民の暮らし

世帯人口 1世帯当り2.7人	人口密度 1kmに2,407人			出生 1日につき19.2人	死亡 1日につき11.0人
結婚 1日につき12.0組	離婚 1日につき3.2組	転入 1日につき97.3人	転出 1日につき96.5人	酒 1人1日0.17リットル	
乗用自動車(軽自動車を含む) 1世帯に0.9台	犯罪 1日に29.2件	交通事故 1日に12.3件	市職員 市民95.8人に1人	消防職員 市民1,019人に1人	
火災 1日に0.52件	水道使用料 1日1人あたり258円	ごみ収集量 1日に798トン	市税 市民1人当り121,014円	市の予算 市民1人当り350,817円	

(数値については平成5年分又は5年度分)